

我が国の研究活動の振興に資 する大学図書館の機能

有川 節夫

九州大学名誉教授

SPARC Japan セミナー
2016年3月9日

内容

1. はじめに（私の図書館との関り）
2. 進化する大学図書館機能
3. 教育・研究を支援する大学図書館
4. 共同して教育・研究する大学図書館
5. 自ら教育・研究をする大学図書館
6. おわりに（深化する大学図書館機能）

2. 進化する大学図書館機能

- 法令・基準等に見る大学図書館の位置付け
 - 1) 国立学校設置法 (1949年～2004年)
 - 2) 大学設置基準(1956年～)
 - 3) 大学図書館施設計画要項(1963年～)
 - 4) 大学図書館基準 (1952年制定、1982年改訂)
- 答申・建議等に見る大学図書館の進化
 - 1) 今後における学術情報システムの在り方について(答申)(学術審議会、1980)
 - 2) 大学図書館機能の強化・高度化の推進について (報告) (学術情報部会、1993)
 - 3) 大学図書館における電子図書館機能の充実・強化について (建議) (学術審議会、1996)
 - 4) 学術情報基盤の今後の在り方について(報告)(学術情報基盤部会、2006)
 - 5) 大学図書館の整備について (審議のまとめ) —変革する大学にあって求められる大学図書館像—(学術情報基盤部会、2010)
 - 6) 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について (審議まとめ) (学術情報委員会、2013)
 - 7) 我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について ～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～(内閣府、2015)

法律・基準等に見る大学図書館



1) 国立学校設置法 (1949年制定、2004年廃止)

- 第6条：国立大学に「附属図書館」を置く

2) 大学設置基準

(学校教育法に基づいた文部（科学）省令、1956年制定、2015年施行)

- ① 第36条（校舎等施設）：「図書館」を置く、夜間学部の図書館利用
- ② 第38条（図書等の資料及び図書館）：図書資料の整備、情報処理・情報システムの整備、大学間の協力、専門的職員とその他の専任職員の配置、十分な席数のある閲覧室・レファレンスルーム・整理室・書庫等を整備
- ③ 大学設置基準の大綱化（1991年、それまでは、座席数や図書・学術雑誌の冊数・種類数に関する量的な規定をしていた。）

3) 大学図書館施設計画要項

(文部省、1963年11月、必要面積など施設面に加えて、組織・運営にまで言及)

4) 大学図書館基準

(大学基準協会、1952年制定、1982年改訂)

- ① 図書館の機能と業務 (図書館機能：資料の整備、それらを教育・研究・学習に効果的に提供)
- ② 職員 (専門職員、処遇)
- ③ 施設・設備 (教育・研究・学習に十分なスペース、互換性・拡張性)
- ④ 組織及び管理運営 (分館、館長、副館長)
- ⑤ 予算、相互協力 (経常的経費・臨時的経費、予算の伸び、学術情報流通のための「ネットワーク」の形成)

4) 学術情報基盤の今後の在り方について (報告)(学術情報基盤作業部会、2006年3月)

- ① 学術情報基盤としてのコンピュータ及びネットワークの今後の整備の在り方について
- ② 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について
- ③ 我が国の学術情報発信の今後の在り方について

✓ 大学図書館はこれら3つの全てに関係する。

✓ 以後暫く、この部会等では、上記3つの課題について個別的に議論することになった。

② 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について



- 大学図書館の財政基盤が不安定
- 電子化への対応の遅れ
- 電子ジャーナル、機関リポジトリ
- 体系的な資料の収集・保存が困難
- 目録所在情報サービスの問題点
- 図書館サービスの問題点
 - ✓ 主題知識、専門知識、国際感覚を持った専任の図書館職員が不十分
 - ✓ 情報リテラシー教育の位置付けが不明確
 - ✓ 利用者ニーズの把握が不十分

③ 我が国の学術情報発信の今後の在り方について

- 研究成果情報の受・発信の国際的なアンバランス状態
- 学術雑誌の品質向上の必要性
- 学術雑誌の電子化の遅れ
- 雑誌評価（インパクトファクター利用の問題点）
- オープンアクセス運動への対応（機関リポジトリ）
- アーカイブ化の遅れ

5) 大学図書館の整備について (審議のまとめ)

—変革する大学にあって求められる大学図書館像

(学術情報基盤作業部会、2010年)



① 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

- 大学図書館の基本的機能
- 環境の変化と大学図書館の課題
- 大学図書館に求められる機能・役割
 - ◇ 学習支援と教育活動への直接の関与
 - ◇ 研究活動に即した支援と知の生産への貢献
 - ◇ コレクション構築と適切なナビゲーション
- 他機関・地域等との連携及び国際対応
- 大学図書館の組織・運営体制の在り方
 - ◇ 各大学における戦略的な位置付けの明確化
 - ◇ 財政基盤の確立
 - ◇ 専任職員と臨時職員の配置、外部委託の在り方

5) 大学図書館の整備について (審議のまとめ)



KYUSHU
UNIVERSITY

—変革する大学にあって求められる大学図書館像—
(学術情報基盤作業部会、2010年)

②大学図書館職員の育成・確保

- 大学図書館の業務内容の変化を踏まえた大学図書館職員の育成・確保の必要性
- 大学図書館職員に求められる資質・能力等
 - ◇ 大学図書館職員としての専門性
 - ◇ 学習支援における専門性
 - ◇ 教育への関与における専門性
 - ◇ 研究支援における専門性
- 大学図書館職員の育成・確保の在り方
 - ◇ 大学における養成
 - ◇ 大学図書館の現場における育成
 - ◇ 大学図書館職員のキャリアパス

7) 我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について

～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～

(国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会、
内閣府、2015年3月)

① オープンアクセスとオープンデータ

② 国際的動向への対応

- 国としての基本姿勢・基本方針
- 推進の基本的考え方
- 関係機関における実施方針等のあり方

3. 教育・研究を支援する大学 図書館



法令、基準、建議、審議のまとめ等から大学
図書館の

- ICTへの関りが深化し、高度化し、
- 機能が進化し、

学習・教育・研究の活動支援から、教育・研究、人材育成等へのより直接的な貢献が期待されつつあることが分かる。

研究活動支援

- 伝統的な大学図書館の業務
 - 図書資料の整理・管理・貸出し・相互貸借
 - レファレンスサービス
- 研究活動支援
 - 学術雑誌や図書等、研究をする上で必要な情報を確保すること
 - 蔵書構築への積極参画
 - ナビゲーションの機能の整備
 - E-ScienceやCSIのシステム構築・運用への参画
(CSI: Cyber Science Infrastructure)

図書館における研究支援の形

- ① 研究図書館機能の整備・充実
- ② 機関リポジトリによる研究成果の編集・発行
- ③ リエゾン/サブジェクト ライブラリアン
 - ・ 第3の職種としての位置付け
- ④ 研究戦略関係の部・課との連携
 - ・ 研究戦略企画部門（九大）
 - ・ 研究戦略室（九大）
- ⑤ URAにおける位置付け
 - ・ 図書館職員がURAと(連携)して働く
 - ・ 国際的動向、関連分野の俯瞰、研究戦略、競争的資金に関する情報

オープンサイエンスにおける期待



① オープンアクセス

- 電子ジャーナル問題
- 機関リポジトリ
- 日本でも、オープンアクセスポリシーが図書館主導で制定され始めた。(京都大学、筑波大学、国際日文研、九州大学)

② オープンデータ

- 当面公的資金による研究が対象
- 研究活動の振興
- 情報基盤センター、NIIとの連携
- 機関リポジトリでの経験・蓄積がいかせる

③ 国が制度を整備して、研究者や大学、学会等は権利・義務として参加する。(提案)

4. 共同して教育・研究する大学 図書館



- 蔵書構築
- ナビゲーション

- リエゾン・ライブラリアン
- サブジェクト・ライブラリアン

- 教員と共同して学生の教育を行う。
- 研究者と共同して研究を行う。

- 新図書館建築への関与（筑紫、伊都理系、伊都中央）
- 他機関との連携
- 国際連携

共同研究する大学図書館（九大）

- 附属図書館 研究開発室の設置
 - 専任教員の配置
 - 研究院等からの兼任
 - 図書館職員の兼任（参加）
 - 共著の論文
 - 共著の寄稿
 - システムの共同研究開発
- 付設 記録資料館
- 付設 教材研究開発センター
- 教員の合同の研究会・研修会

目録カード画像検索システム (九大)

キーワード検索: 文学部 和書 から 検索 ヘルプ トップページ 目録カード画像検索システム

仕切り名: アリマ

<前 次> 前の20枚 次の20枚 前の仕切り 次の仕切り

45

国文 ある型動詞の諸相 : 作家の表現を
中心として
官地 幸一
東京 桜楓社 1985.9
366p 22cm
(活用表現論 2)

06805 118900
2104

46

カテゴリ

総合目録
和書A 和書B 洋書A 洋書B

文学部
和書 洋書 ロシア語

理学部
和書 洋書

医学部
和書 洋書

教育学部
和書 洋書

中央図書館貴重書
文庫目録 和漢書 洋書

その他
法学部古文書 坐春風文庫
富田文庫 高瀬文庫 中山文庫
松濤文庫 崎門文庫 筑紫文庫

引出し履歴

文学部 和書: アリマーイク
文学部 和書: アマーアリホ
文学部 和書: アシーアホ
文学部 和書: アーアサ

文学部 和書: アリマ (103) ■
アア (56) ■

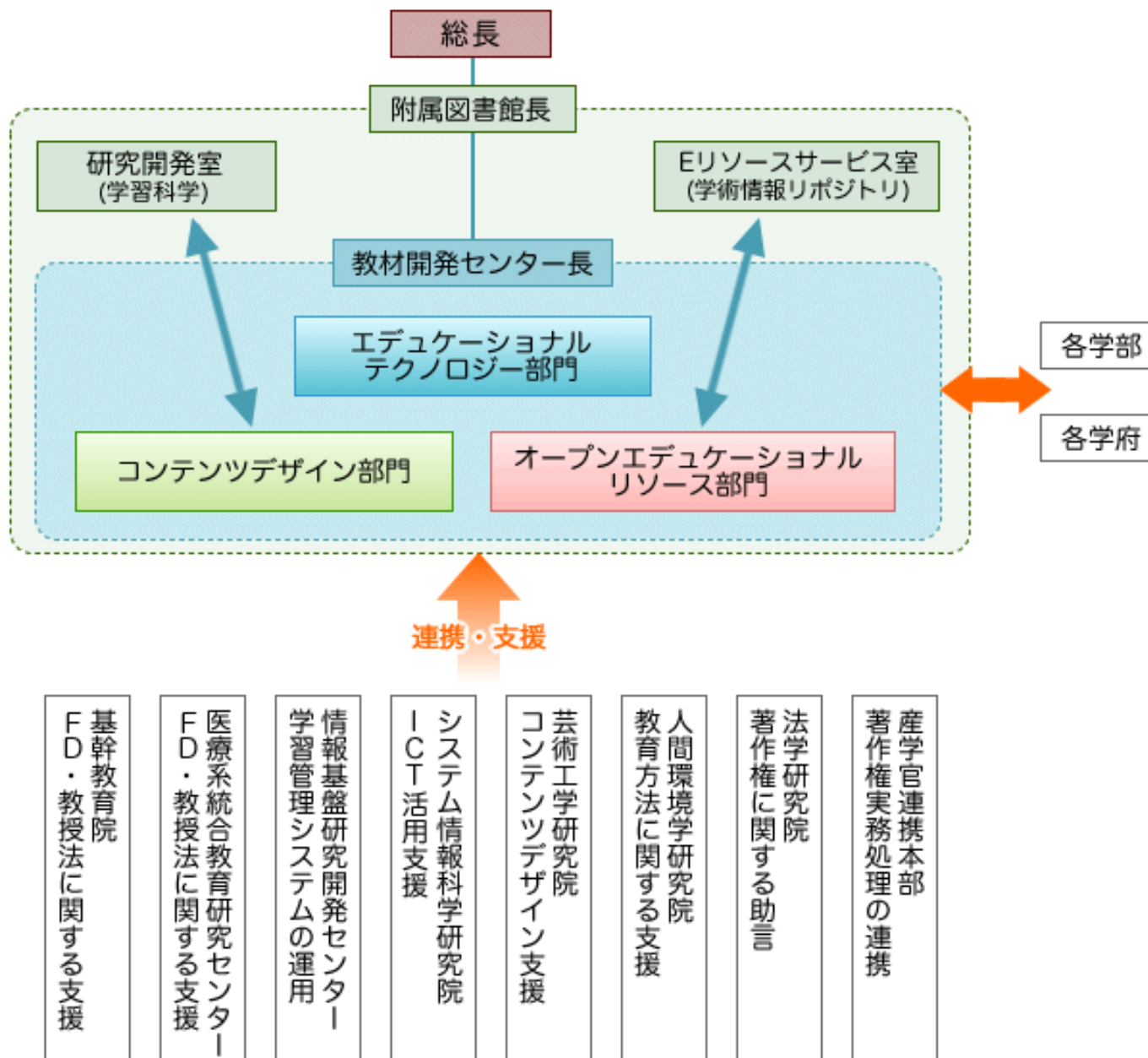
文学部 和書
イタツフ
イキリス ヒ
イキリス
イキ
イオ
イエ
イア
アンナ
アンタ
アンサ
アンク
アン
アワ
アリマ
アリマーイク

電子図書館機能の整備・充実（九大）

- ① 非接触型 I C タグ（R F I D）の導入（実証実験）
 - 図書の入館から配架、貸出、返却、管理
 - 盗難予防、24時間開館、省力化
 - 実験から新たな展開へ（新キャンパスへの導入）
- ② 図書館入館証、学生証等一体化させた全学共通ICカード
- ③ 自動書庫の導入（筑紫図書館、理系図書館：80万冊）

共同して教育を行う大学図書館

- ① レファレンスサービス
 - 内容が多彩になっている
 - 図書館＋ラーニングコモンズ等
- ② 情報リテラシー教育
- ③ 基幹教育(九大)
 - 基幹教育院の教員の支援
- ④ 教材開発センター(九大)
 - 附属図書館付設のセンター



図書館の国際交流・連携(九大)



① 交流協定締結（「国際交流担当職員」の設置）

- ソウル大学校
- 慶北大学校
- 台湾大学
- トロント大学
- イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校

② 海外の大学図書館と職員の長期受入・派遣を行い実務的で高度な業務交流を実現

<受入>

韓国ソウル大学校中央図書館職員 3名（6ヶ月、3ヶ月、2ヶ月）

<派遣>

- クィーンズランド工科大学（オーストラリア）6ヶ月
- トロント大学（カナダ）3ヶ月
- アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）2ヶ月
- ソウル大学校（韓国）2ヶ月

③ 大学出版会の出版物の相互交換

6. 自ら教育・研究をする大学図書館

① 司書養成課程（九大）

- 文学部に2012年4月開講
- 図書館職員が講師として教育に参画

② 大学院（ライブラリーサイエンス専攻）（九大）

- 統合新領域学府の1専攻として2011年4月開設
- 図書館職員が学生として学び、研究する
- 図書館職員が専任教員として指導し、研究する

③ 付設記録資料館（九大）

④ 研究開発室（九大）

- 1996年開設、その後、専任教員を配置
- 学内（外）教員兼任＋図書館職員

⑤ オープンアクセス

- オープンデータの収集・管理・提供等に関する研究

平成21年度設置

大学院 統合新領域学府

学府のコンセプト

出口(ユーザーの視点)から
科学を再構築する。



オートモーティブサイエンス専攻



ユーザー感性学専攻



ライブラリーサイエンス専攻

●修士課程 (平成23年4月)

●博士後期課程 (平成25年4月)

2016/03/09

■学 府 名: 大学院統合新領域学府
Graduate School of Integrated Frontier Sciences

■専 攻 名: ライブラリーサイエンス専攻
Department of Library Science

■学 位 名: 修士(ライブラリーサイエンス)
Master of Library Science

博士(ライブラリーサイエンス)
Doctor of Library Science

■入学定員: 修士課程 10名

博士後期課程 3名

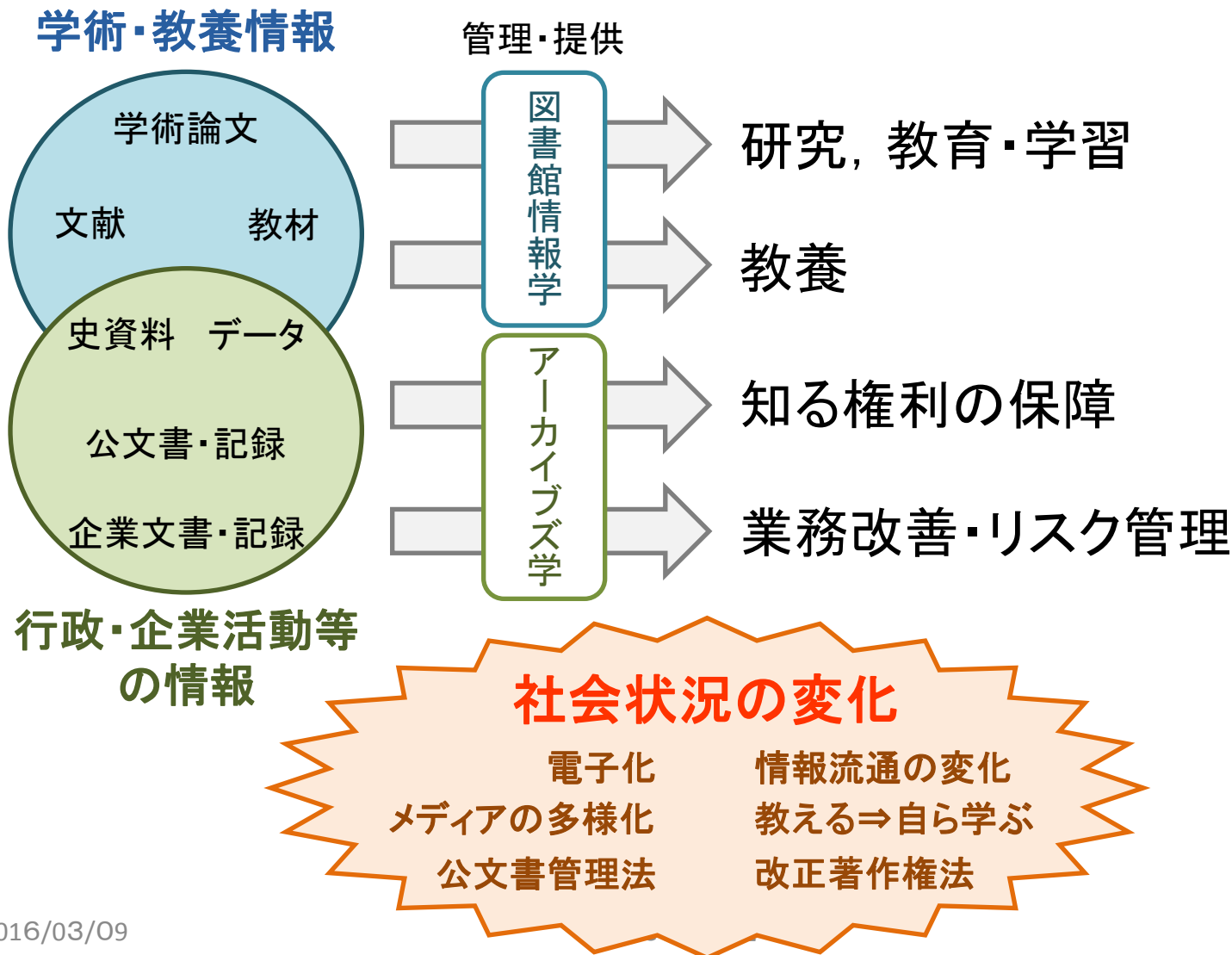


■開設時期:

修士課程 平成23(2011)年4月

博士後期課程 平成25(2013)年4月

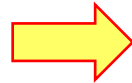
情報の管理・提供の意義と課題



知の活用・創造・継承

文系と理系の枠を超えて社会の変化に対応できる人材の育成を目指す

記録管理の専門家



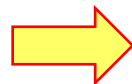
国および地方公共団体等における公文書管理、
ならびに民間企業(電力会社・製薬会社等)における
記録管理の専門家

＜アーキビスト、レコードマネジャー等＞

「日本アーカイブズ学会登録アーキビスト」資格



情報専門職

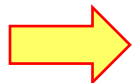


主題に関する専門知識を有し、情報を管理・提供
する専門職

＜サブジェクトライブラリアン等＞



情報管理・提供組織の
管理者



情報を管理・提供する組織における
問題解決、戦略立案および指導を行う管理者



情報通信技術専門家



情報ユーザーの要求に対し、情報通信技術を
応用し、理論構築やシステムを開発する専門家
＜データエンジニア等＞



研究者

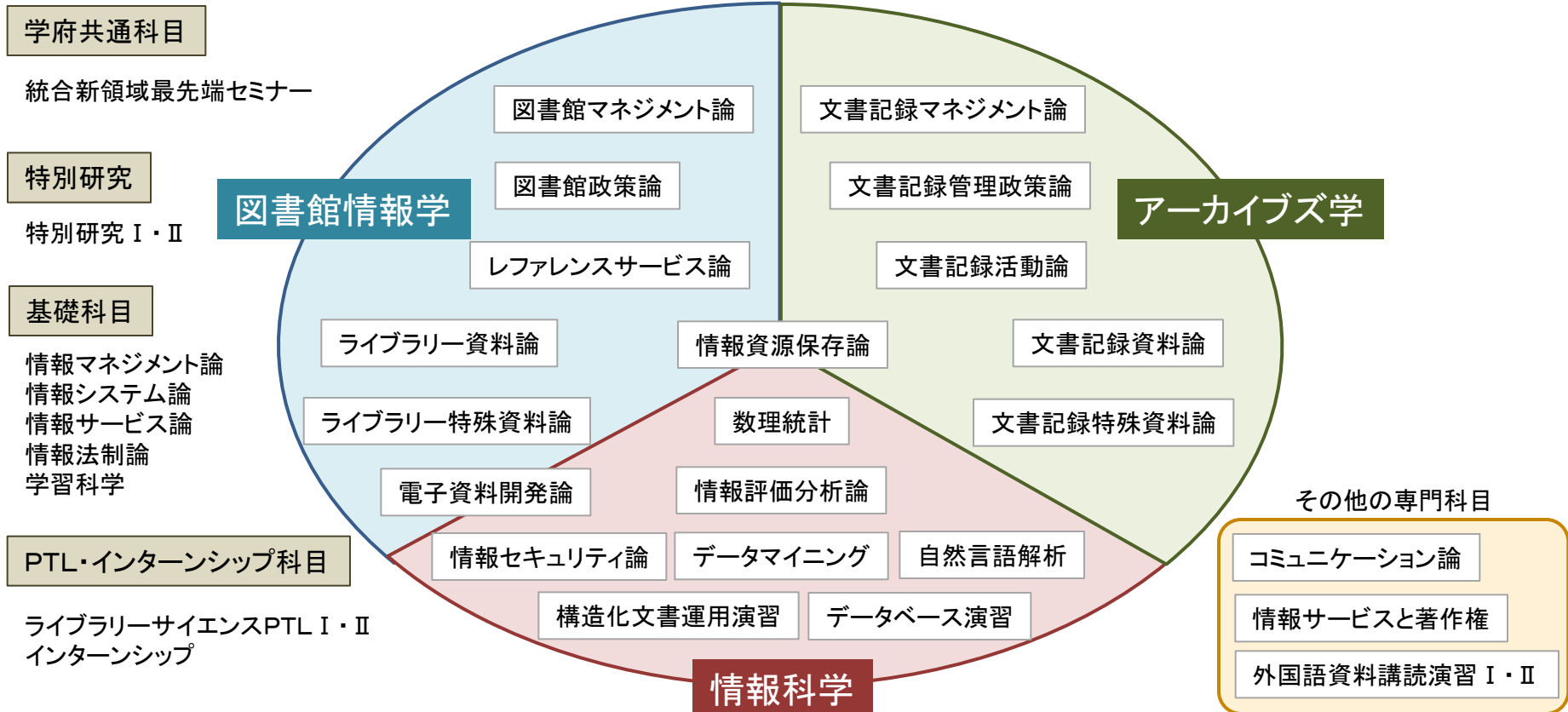


「ライブラリーサイエンス」という新しい学問領域
を進化、発展させる研究者



カリキュラム … 関連領域を統合

【修士課程】 修了要件 36 単位以上 専門科目(選択)



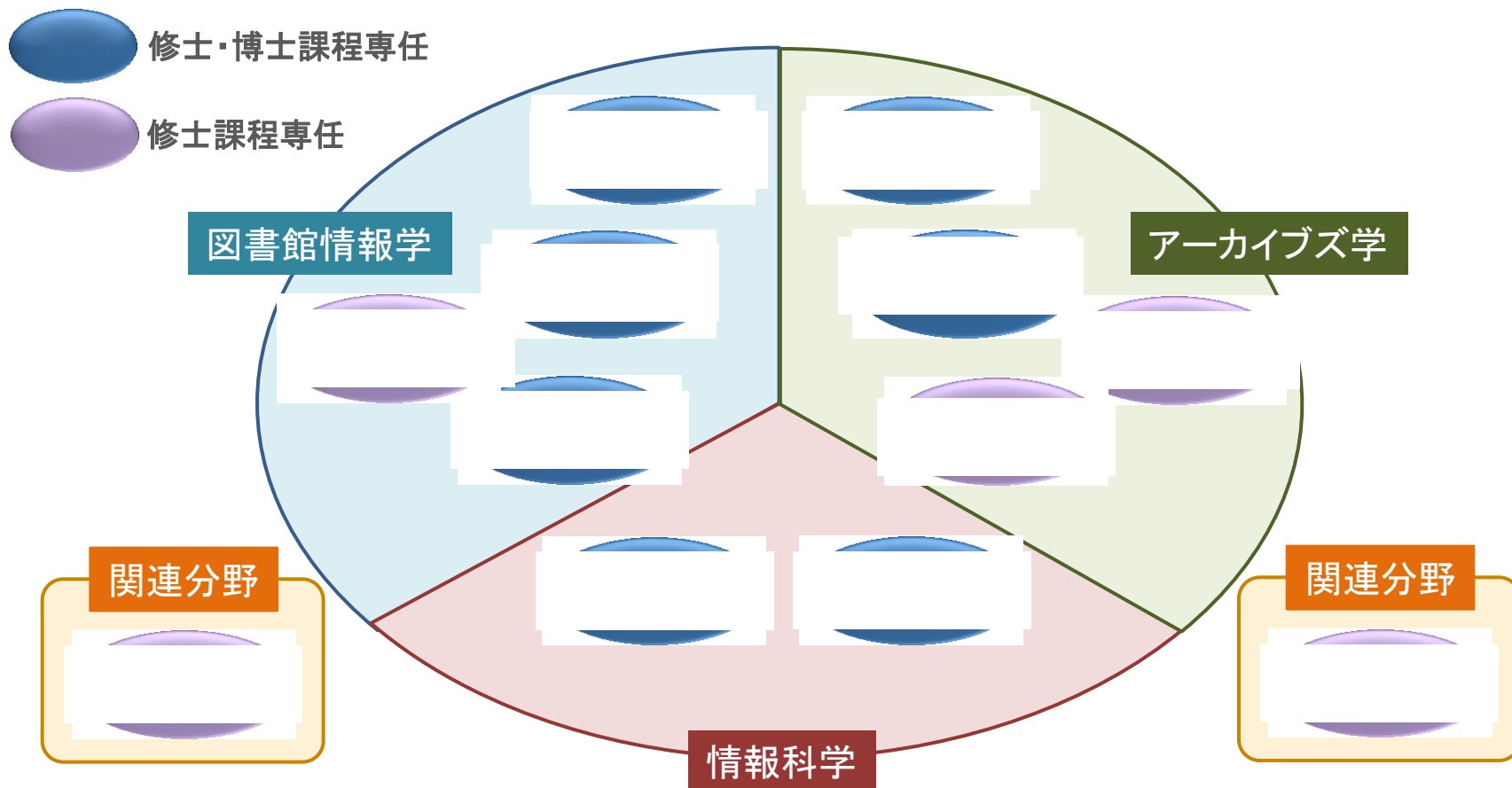
【博士課程】 修了要件14単位以上

ライブラリーサイエンス特別研究
ライブラリーサイエンス特論
プレゼンテーション演習

※ 基盤的知識・能力が不足する場合、修士課程で開設されている授業科目を履修するよう指導

※ 本学府他専攻, および他学府の科目も可(合計4単位まで)

教員組織とその特色



【特色】

- 多様な分野からの参画
- 現職の大学図書館職員が専任教員として参画
- 記録管理の業務に携わる民間企業からの非常勤講師

図書館と連携した大学院教育

- 図書館を教育研究のフィールドとして活用
 - ✓ 図書館の施設や資料を利用した演習
 - ✓ 図書館の現場の課題をテーマにしたPTL
 - ✓ インターンシップ など
- 図書館職員が教員／学生に（境目のない世界）
 - ✓ 現職の図書館職員が専任教員として参画
 - ✓ 専任教員以外の図書館職員も講師やコメンテーターとして参加するなど、実務経験を活かした教育支援
 - ✓ 現職の図書館職員が学生として入学
 - 勤務を続けながら平日昼間の修学が可能となるよう、就業規則を改正（1月単位の変形労働時間制の適用）
 - 大学間の人事交流を利用した入学希望者の受入 など
- 講演会等の共催

6. おわりに (深化する大学図書館機能)

- 進化して、深化する大学図書館の機能
 - 対象とするメディアの多様化
 - 収集・管理・貸出から編集・出版へ
 - サービスから支援、教員と共同して教育・研究、さらに、高度な図書館職員の人材育成にも直接参画
 - 自ら研究・開発、教育も行う
- 大学図書館の組織も変わるべきではないのか
 - 事務部門（総務、財務）
 - サービス部門（受付、貸出し、返却）
 - 専門部門（リエゾン/サブジェクト ライブラリアン）
 - 研究開発部門
 - 教育部門
 - 人材育成部門